

学会発表

農薬等のポジティブリスト化に伴う検査の精度管理に関する研究(第2報)

村田 弘^{*1} 織田 肇^{*1} 岩上正藏^{*1}
田中之雄^{*2} 住本建夫^{*1} 高取 聡^{*1}
北川陽子^{*1} 柿本幸子^{*1} 岡本 葉^{*1}
酒井 洋^{*3} 上野英二^{*4} 田中敏嗣^{*5}
宇野正清^{*6} 宇治田正則^{*7} 佐々木珠生^{*8}
堤 泰造^{*9} 衛藤修一^{*10}

第44回全国衛生化学技術協議会
2007.11.15~16 三重県

9 地方衛生研究所による外部精度管理,内部精度管理を実施した。

精度管理の結果を良好であり,「正確なく(一定の)標準品」を用いて,「適正な分析法」で実施して,「良好な状態の分析装置」で測定することによって信頼性のある結果が得られることが示唆された。

-
- *1: 大阪府立公衆衛生研究所
 - *2: 現 (社)大阪食品衛生協会
 - *3: 新潟県保健環境科学研究所
 - *4: 愛知県衛生研究所
 - *5: 神戸市環境保健研究所
 - *6: 奈良県保健環境研究センター
 - *7: 和歌山市衛生研究所
 - *8: 広島市衛生研究所
 - *9: 徳島県保健環境センター
 - *10: 北九州市環境科学研究所

ノロウイルスの特徴と検査について

阿部 勝彦

ノロウイルス感染症・食中毒予防対策講習会

2007.11.13 広島市

ホテル・給食施設・高齢者施設等の調理責任者・施設管理者を対象に,ノロウイルスの糞便中への排せつ量,生存性,排出期間,不顕性感染の割合と広島市での検出ノロウイルスの遺伝子解析について講演した。

カキ混合検体からのノロウイルス濃縮操作におけるアミラーゼ処理の有用性(2)

野田 衛^{*1} 橋本玲子^{*2} 有田知子^{*3}
伊藤文明^{*4} 池田義文^{*4} 西尾 治^{*5}
第55回日本ウイルス学会学術集会

2007.10.21~23 札幌市

昨年発表した,カキからのアミラーゼ(AM)処理によるノロウイルス(NV)濃縮操作をさらに改良することを目的に,PEG6000,NaCl,AMの使用濃度の最適化とカキ中腸線からの有利法について検討した結果,PEG6000は12%,NaClは1M,AMは25mg/10mlが最も回収率が高かった。これらの結果からAM処理を行い,至適化した条件でAM添加PEG沈澱を行うことで,カキからのNV検出は大幅に改良できると考えられた。

*1: 国立医薬品食品衛生研究所

*2: 山口県環境保健センター

*3: 独立行政法人日本スポーツ振興センター

*4: 広島市衛生研究所

*5: 国立感染症研究所

ノロウイルス検査の現状

阿部 勝彦

第21回生活衛生関係業績発表会

2008.3.26 広島市

ノロウイルス(NV)検査の流れ,2004年から現在までのノロウイルスの検査件数の増大により,業務や予算を圧迫している現状,微量汚染された検体について,新たな検査法を用いることで初めて食品,スワブよりNVを検出したことを発表した。

広島市域におけるヒトメタニューモウイルスの検出状況

山本 美和子

第 21 回生活衛生関係業績発表会

2008.3.26 広島市

hMPV の検出状況は、2006 年は、3 月に最も多く、1 月から 8 月まで検出された。しかし、2007 年は、2 月から 12 月まで検出された。臨床症状は、発熱が最も多く 97% で、患者の平均体温は 39.4 と高熱であった。次に肺炎等の下気道炎症状（82%）、咽頭炎等の上気道炎症状（27%）であった。その他の症状（6.1%）は、筋肉痛、意識障害、吐き気等であった。主要な臨床症状は、高熱と下気道炎であり、インフルエンザと類似していた。